

湖東普及だより

令和元年
夏号

編集発行

滋賀県湖東農業農村振興事務所農産普及課（発行責任者：近藤 篤）

（湖東農業普及指導センター）

〒522-0071 彦根市元町4番1号 Facebook ページ2次元コードはこちら→

TEL：0749-27-2228 FAX：0749-23-0821 E-mail：ga32@pref.shiga.lg.jp

Facebook アドレス：https://www.facebook.com/hukyuudayori.kotou

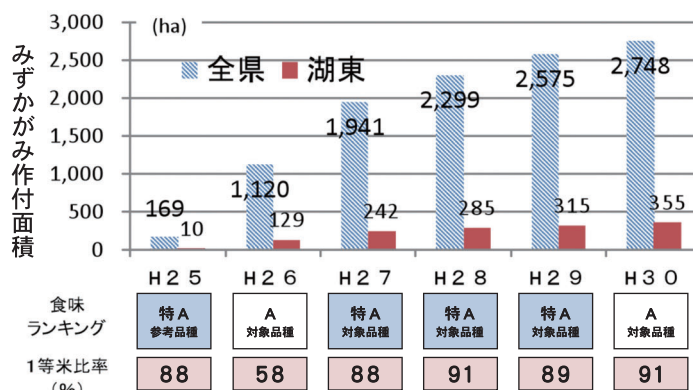


デビュー7年目を迎えた「みずかがみ」

多くの実需者から「みずかがみ」の生産拡大が求められています

平成25年度に県全体で169haでスタートした「みずかがみ」は平成30年には2,748haとなり、6年で徐々に拡大してきました。それでも、まだ需要に生産が追いついていない状況にあります。この差を満たし、消費者や卸売業者等の期待に応えるためには、今後も生産拡大が必要です。

全県の「みずかがみ」作付面積のうち、湖東の占める面積は約13%となっています（右図）。また管内の「みずかがみ」作付品種割合は約10%であり、これは県平均より高くなっています。地域のみなさんの積極的な取組の成果と考えています。



「みずかがみ」の生産状況の推移

※1等米比率は農林水産省公表値（滋賀県）平成30年産は平成31年3月27日現在

「みずかがみ」の特Aへのカムバックを目指します

「みずかがみ」は、平成27年から29年まで3年連続で日本穀物検定協会が行う食味ランキングで「特A」に評価されました。しかし、平成30年産米では「A」評価と一段落下がりしました。そこ



写真 良食味「みずかがみ」生産の実証ほ場で2018年7月7日のようす

で本年は、本来の良食味米である「みずかがみ」の性質を強く引き出して「特A」にカムバックするように、プロジェクトを進めていきたいと考えます。

「みずかがみ食味コンクール」も引き続き行います。みなさんの積極的な参加をお願いします。

小麦の新しい施肥方法「後期重点施肥」

「後期重点施肥」とは？

小麦の安定・多収を目指すため、「適期播種」や「排水対策」といった基本技術の励行をお願いしてきました。近年、更に多収を目指して、従来の基肥重点から穂肥など後期の施肥に重点をおいた施肥方法が、国等で研究されています。後期の施肥により有効茎歩合や千粒重の増加が期待でき、多収に繋がる施肥方法として、管内でも試験を行っています。

「後期重点施肥」の効果は？

平成29年度から平成30年度にかけて彦根市の現地試験で、従来の施肥と後期重点施肥方法を比較しました。（表1）。

この結果、生育前半では茎数・草丈共に従来の施肥が上回っていましたが、4月に入ると逆転し後期重点施肥の方がどちらも多くなりました（図1）。特に収量は、後期重点施肥で穂数や千粒重が多くなり、従来の施肥に対し54%の増加が見られました（表2）。また、稈長が長くなる傾向でしたが倒伏の影響や遅れ穂の発生などの影響も従来の施肥と比べて差はありませんでした。

表1 施肥体系の概要

	窒素施用量 (kgN/10a)						合計
	基肥	追肥	穂肥1	穂肥2	穂肥3	実肥	
後期重点施肥	11/2	1/16	2/13	3/2	3/12	4/28	16.3
従来施肥	2.1	0	5	0	5	4.2	15.8

注)基肥:塩化燐安1号(14-14-14)、追肥・穂肥:NK化成C20号(20-0-10)、実肥:硫安(21-0-0)

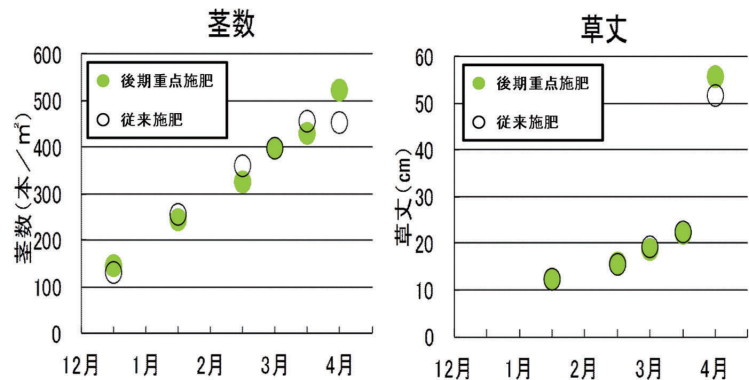


図1 茎数および草丈の推移

表2 生育、収量、品質調査結果

	穂数 (本/m ²)	倒伏程度 (0-5)	精子実重 (kg/10a)	容積重 (g/L)	千粒重 (g)	蛋白含有率 (%)
後期重点施肥	480	0	632	813	38.2	10.8
従来施肥	391	0	410	814	37.8	11.3

引き続き調査を行っています！

上記の比較試験は冬季がかなり低温年の年でした。今年（令和元年産）のような暖冬年ではどのような結果になるか、引き続き調査を行っています。

「後期重点施肥」についてもっと知りたいという方は、湖東農産普及課までご連絡ください。



写真 今年度実施している試験状況
従来施肥ほ場（左）と後期重点ほ場（右）

集落営農向け水田野菜栽培のススメ

管内では野菜生産に取り組む集落営農組織が増加していますが、収量が低かったり、人件費が思ったより必要となるといった課題を持つ集落もあります。そこで、野菜部門導入の際に注意するポイントをまとめましたので、ご紹介します。

【ポイント1】野菜導入の目的を明確にする

稲作の収益減少分の補てん等、経営改善が目的である場合

機械化による省力と大面積栽培が可能なキャベツ・タマネギのような品目が適します。人件費削減のため、作業の効率化や出役計画の検討が重要です。

女性・高齢者など、多様な人材活用が目的である場合

ナバナ・ブロッコリーのような軽量品目が適します。特に、ナバナは収穫に労力を要し、労賃がかかりますが、地域への利益還元につながります。



タマネギ定植機



収穫後のナバナ

【ポイント2】野菜部門のリーダーと作業者を明確にする

日々の生育を継続的に観察し、次の管理作業を指示する野菜専属リーダーが不可欠です。また、水稻・麦・大豆の繁忙期でも、野菜優先で作業できる作業員の確保も重要です。

【ポイント3】排水良好ほ場を選定し、適期作業できる体制をつくる

安定生産の絶対条件は、小麦の高収量ほ場など、排水良好地での栽培です。また、秋冬野菜の定植と稲刈りが重なる8~9月のような農繁期を事前に把握し、作業分散が可能な品種・作型の選択や、出役計画の作成を行っておくことが大切です。

作業計画

品目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
水稻				は種	田植え				稲収穫						
キャベツ				秋冬野菜の定植は稲刈りと重なりやすい			は種	定植			収穫				
ブロッコリー							は種	定植			収穫				
ナバナ				タマネギ収穫は麦刈りや大豆は種と重なりやすい				は種	定植			収穫			
タマネギ						収穫		は種	定植						
麦						麦収穫				麦は種					
大豆						大豆は種					大豆収穫				

以上のようなポイントを十分検討し、水田野菜の持続的な安定生産を目指してください。

話題の最先端技術を実演しました！

湖東地域農業センターが4月22日に彦根市稲枝地区で、濁水対策と兼ねてロボットトラクタとフルオート田植機の実演をしましたので、その概要を紹介します。

ロボットトラクタ

昨年ドラマでも有名になった、無人で作業を行うロボットトラクタが彦根にもやってきました。このトラクタは、道路からタブレットを操作することで精度の高い代かきを実演しました。代かきの他にアタッチメントを変更することにより、耕起作業や施肥作業を実施できます。



作業中のロボットトラクタ

フルオート田植機

特別な技術や経験が無くても、自動で熟練者なみにまっすぐ正確な植付けができる田植機。以前は直進のみが自動化されていましたが、最新のテクノロジーにより旋回が可能になり、完全自動化が実現され、より簡単に田植作業が実施できます。



手放して運転しているフルオート田植機

農業大学校で農業を学びませんか！

滋賀県立農業大学校(専修学校)では、本県農業を担う優れた青年農業者等を養成する「養成科」と就農に必要な技術と知識を修得、就農するための「就農科」があります。

昭和44年の開校以来、養成科では1,197名が卒業し、就農や農業法人への就職、JAや機械・資材・種苗などの農業関連企業、市場卸売り会社などで活躍しています。

オープンキャンパスは、令和元年7月6日(土)と9月7日(土)に行われます。詳しくは同校教務担当(0748-46-2551)または農産普及課までお問い合わせください。また、就農科を希望される方は願書受付開始までに、必ず就農予定地の農産普及課にご相談ください。



各科の願書受付期日

	養成科(修業年限2年)		就農科(修業年限1年)
	推薦入試	一般入試(一次※)	
募集人数	20名程度	10名程度	10名
願書受付期間	令和元年10月3日 ~10月16日まで (郵送の場合は当日消印有効)	令和元年11月28日 ~12月4日まで (郵送の場合は当日消印有効)	令和元年12月19日 ~令和2年1月27日必着
応募資格	滋賀県内に在住し、令和2年3月に高等学校卒業見込みの者で本農業大学校を専願する成績優秀な者	高等学校を卒業した者および令和2年3月卒業見込みの者等	20歳以上65歳未満の者 修了後、県内で農業経営を行い、出願時に農地を確保できる見通しがある者

※定員に達しない場合、二次募集あり